

## 文献紹介

財団法人 千葉県史料研究財団編

『千葉県の歴史 別編 地誌3(地図集)』

千葉県 2002年3月

A4判 500頁 9,800円

近年、県史や市町村史などの編纂事業において、地図編が刊行されるようになり、それを地理学研究者が主導していることは、学会にとって喜ばしいことである。ここで紹介する『千葉県の歴史 別編 地誌3(地図集)』は、全51巻の千葉県史のうち、別編地誌I(総論)、地誌2(地域誌)に続く、3巻目として刊行されたものである。

刊行の経緯については、県史編纂地誌部会長の白井哲之氏(早稲田大)によって雑誌「地理」などに詳しく紹介されている<sup>1)</sup>ので略すが、執筆者は白井氏のほか、山村順次、三澤正、竹内裕一、中西遼太郎の千葉大関係の諸氏、駒澤大の橋詰直道氏、県高校地理から杉浦和義、関信夫、鳥光一男、石毛一郎の諸氏、さらにデータ処理や図の作成には、吉村陽子、森直子、渡部聖一、土屋晴彦などの方々があたっており、千葉県の地理学研究者が総力をあげて刊行されたものと察せられる。

本書は、ナショナル・アトラス的な各種の主題図によって千葉県の姿を描いた前半と、新旧の地形図を対比することによって地域の変容を捉えた後半の二本立てで構成されているが、いずれもこれまでの自治体史の地図編には見られない異色のものとなっている。従来、自治体史の地図編といえば、閲覧の難しい貴重な国絵図や城下町絵図などを、写真撮影して解説を付し刊行するものがほとんどであった。これは研究者や絵図(地図)の愛好家にとって好評なのは当然であるが、刊行できるのは貴重な絵図類が残っている自治体に限られる。その意味で、本書は史料限定という点を克服した新たな自治体史地図編の一つの方向性を切り拓いたものといえよう。

次に、本書の目次を掲げ、いくつかのコメントを付したい。

第1章 千葉県のすがた

第1節 千葉県の自然環境

第2節 千葉県の産業

第3節 千葉県の社会

第2章 変わりゆく千葉県

第1節 千葉県における地形図

第2節 地形図にみる地域の変容

資料 千葉県作成地図一覧

第1章の千葉県のすがたは、GISを駆使した主題図<sup>2)</sup>が自然、産業、社会の順に並び、県全体から市町村別の地域性の把握が容易である。第1節の千葉県の自然環境では土地利用、地形、気候などの主題図が続き、最後の自然災害、防災の項目では、地震震度や危険度の分布図(p.51)、地形図上に浸水被害地域を着色した図(pp.52-53)など、視覚的に捉えることにより防災意識の高まりが期待できる。

第2節の千葉県の産業では、経営耕地や作物構成などの農業、工業生産活動の変化、商圏の変化などの地域差に興味がそそられる。1960年頃と現在とを比較した図も多く、約40年間の変化が容易に把握できる。加えて、水郷地域や九十九里浜地域の耕地景観の変化(p.83)、水産加工業者の分布(p.95)、ロードサイドショップと中心商店街の立地展開(p.123)など、特徴を持つ地域が、適宜、取り上げられており、よりミクロなアプローチも試みられている。また、その多くの図が、国勢調査やセンサスなどのオーソドックスな統計だけでなく、組合員名簿やタウンページなど身近なデータを利用するとともに現地調査による地図化も行われており、フィールド科学という地理学の特徴を十分に活かしている。

第3節の千葉県の社会では、人口、都市、政治、生活、環境、郷土の項目が並ぶが、いずれの主題図も興味深く、千葉県の社会的空間の様子がひと目で理解できる。人口集中地域の拡大(p.182)や通勤・通学から見た流動(p.183)、地価の変化(pp.186-187)なども興味深い。生活環境や高齢者福祉、衛生と医療などを取り上げた生活の項目や、環境の認識、地理的認知、生活環境の満足度などアンケートからデータ化した郷土の項目は新鮮である。

第2章の変わりゆく千葉県では、一転して県内各地の変容にスポットが当てられている。第1節は、県内の地形図について図歴や地図記号などの

変遷を入れて解説がなされ、第2節の地形図にみる地域の変容では、主に高度経済成長期以前と以後の新旧の地形図を対比することによって、地図の専門家でなくても、興味を持って地域の変容を容易に把握することを可能としている。この地形図対比の手法を本格的に用いた自治体史は、千葉県史が初めてであろう。

ただ、惜しむらくは、掲載されている多くの地形図が、1950-1960年代のもの、最近のものとの対比が中心であるが、歴史的都市などは、街の骨格が近世～明治期にはすでに形成されており、頁の下端の解説文も近世～明治期から説明しているケースも多い。明治期の地形図をもう少し入れれば、歴史的流れがより鮮明に捉えられたのではないかと思う。

なお、本書の巻末には、資料 千葉県作成地図一覧が掲載されているが、県の縦割り行政の中で、県刊行の最近の地図が網羅されていることは、地図利用者にとって刊行の所在が明らかになり、きわめて便利なものといえる。

以上、気づいた点を中心に述べてきたが、本書は、地理学研究の成果が随所に取り入れられた県史として、見事な出来ばえである。関係者の努力の賜と察せられ、地理学会にとって一つの財産となろう。最後に私的な意見ではあるが、本書のような学会の財産を県史にとどめるだけでなく、そ

のエッセンスを一般書、あるいは副読本のような形で広く普及できないものであろうか。その場合、古い写真なども景観対比に利用すれば<sup>3)</sup>、一層、興味深いものとなるであろうし、その刊行を期待したい。

(平岡昭利)

#### 【注】

- 1) 白井哲之「千葉県史地誌の編纂」、地理46-4、2001、30-35頁。  
白井哲之「県史地誌編の編纂動向とその課題」(山田安彦教授退官記念論集記念会編『転換期に立つ地域の科学』、古今書院、1993)、307-314頁。
- 2) 吉村陽子『千葉県史 別編 地誌3 地図集』編纂におけるGIS利用の試み」、千葉県史研究10、2002、99-112頁では、技術的なことなどが詳しく述べられている。
- 3) かつて評者は、都市景観の変貌を捉えるため、地形図だけではなく市街図、商業図、住宅図、都市計画図、鳥瞰図、古い写真、絵ハガキ、パンフレット、広告、スケッチなど、あらゆる景観把握の手段を利用した下記の書物を刊行したことがあり、参考にさせていただければ幸いである。  
平岡昭利編著『地図でみる佐世保』、芸文堂、1997、136頁。